

# 海に浮かぶ秘密基地

～「使う」だけでなく、みんなで「作る」触れ合いの場～



## ①背景

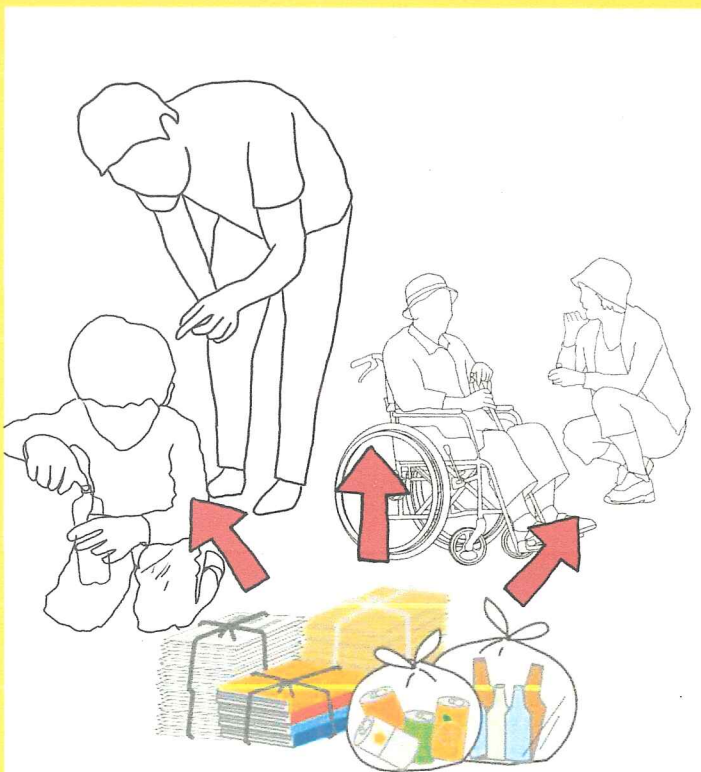
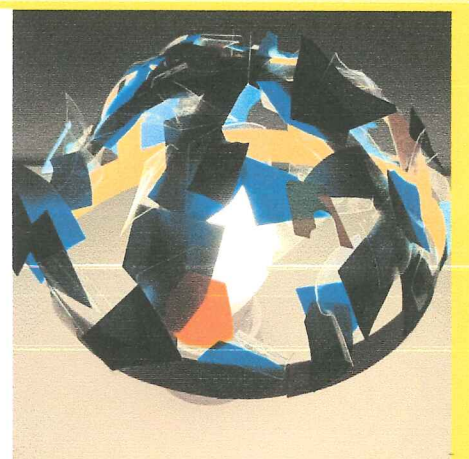
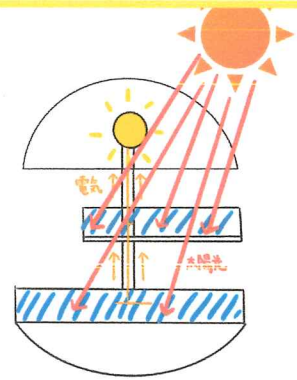
近年、漁港の高齢化による水産業の人手不足が深刻化しており、若者の海・水産業への関心が低下している。また海洋プラスチック問題が生態系に甚大な被害を及ぼしており、2050年の海は魚の数よりゴミの数の方が多くなるとも言われている。これらの問題の解決策として、「海に浮かぶ秘密基地」を提案したい。

## ②使用目的

使用目的は自由。海に暮らす魚や生物の調査や現場で働く漁師の方と釣りを体験し釣った魚を調理する、静かな海の上で読書するなど。年齢や文化関係なく、それぞれが海への関心を持つきっかけとなるような空間に。

## ③街のランドマークに

浮島を囲う側面には太陽光パネルが設置され、昼間太陽光を得て、夜になるとそれ蓄えた電気で中央のライトに明かりがつく。環境に優しい方法で「秘密基地」は夜の海を鮮やかにする。



## ④参加型の秘密基地作り

浮島の屋根は町の人々が各々で持参したプラスチックごみからできている。誰でも参加できるワークショップを開き、それぞれがアイデアを出し合いお手製の愛着の秘密基地を製作。「交流の場」＝「乗り物・建物の中」だけではなく「作る」という過程も含めることで、地域の結びつきはより強くなる。